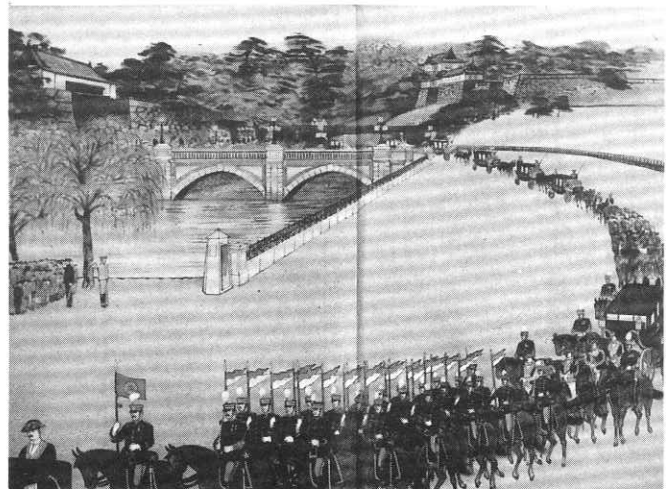
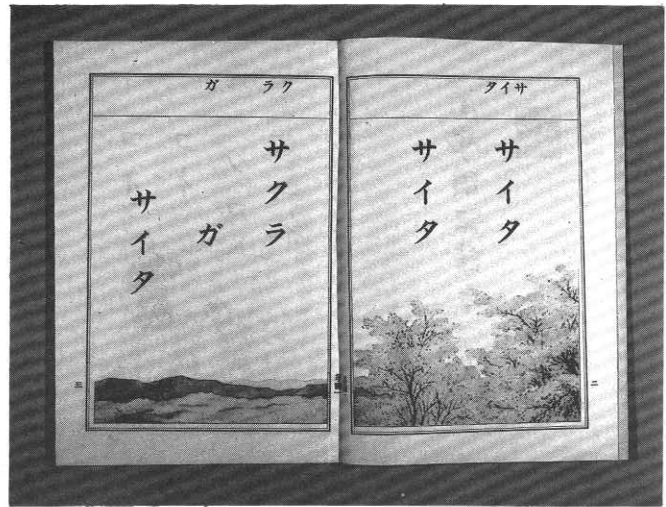


郷土館だより

Vol. 14. No.2

1992. 2. 29



尋常小學校修身書 卷一
 小學校國語讀本 卷一

昭和七年文部省発行の『小學校國語讀本』卷一は、尋常科に入学したばかりの新一年生の國語の教科書です。

その第二ページ目を開くと、満開の桜の絵と大きなカタカナ文字が、まず飛びこんできます。

「サイタ サイタ サクラ ガ サイタ」

昭和初期に、この教科書で学んだ人たちは「サクラ」世代などと呼びますが、この本はいわゆる昭和一ケタ生まれ世代の懐かしい思い出

の一冊でもあります。

カタカナ教育は尋常科二年まで続きます。三年になって、はじめてひらがなを習います。当時、教科書は有料でした。尋常科一年用の巻一が七銭、二年用の巻二が十銭というように、内容の多さに比例して値段が付いていました。

やがて、戦争が間近となり、この「サクラ」教科書は、国民学校教科書(昭和十六年)へと代ります。

郷土館開館20周年を迎えて

三島市郷土館が、昭和46年10月に開館して以来、本年で20周年を迎えました。成人となった本館は多くの市民の皆様のご支援、ご協力に支えられ、少しずつ充実してきたように思います。

20年間に市民から寄贈を受けた貴重な資料は1万4千点を越え、収蔵庫に収まりきれないほどとなりました。タイムカプセル郷土館号もそろそろ脱皮の必要があるのかもしれません。

2・3階の常設展示では、コーナーごとの展示替えがすすみ、本年は20周年記念事業として「三島宿風俗絵屏風」を原寸大に複製し展示しました。三島の特性を生かした展示で、歴史や民俗をトータルに理解する場となっています。

年3～4回開催している企画展にも多数の市民の援助があり、多方面の人々から関心を寄せられています。

とくに小学校を中心に郷土館の見学が授業に組み込まれ郷土教育の一端を担っています。

講座関係では、小中学生対象のもの、女性対象の「ふるさと講座」や市民全般を対象とした「歴史講座」「郷土館講座」等あり、自然・歴史・民俗など各分野の専門の先生方のご協力のお陰で、いつも応募者が殺到し、市民の学習意欲の高さに驚かされます。

このような市民の郷土館の事業に対する深い関心と期待は、単なる生活のゆとりや過去へのノスタルジーだけではないように思われます。変化の激しい社会、生活環境の中で、

生活基盤となっている三島や人々のあるべき姿を求めているのではないのでしょうか。三島の自然や歴史・民俗などの学習を通じて、地域や住民の独自性あるいは将来像を模索している様に感じられます。

文化都市を標榜する三島市において郷土館に求められる役割は多様です。遠来からの観光客へ三島を紹介する施設であり、市民の生涯学習の場であり、情報の発信基地としての面もあり、何よりも貴重な文化遺産を保存し、研究する場でもあります。このような役割を果しながら、地域文化の向上を目指して新たな10年を歩んでいきたいと思えます。

最後に、簡略ではありますが、郷土館の最近10年の歩みを表にまとめ報告させていただきます。

今後とも郷土館の事業へ暖かい励ましをお願い申し上げます。

入館者数

(昭和56年度～平成2年度)

(数字は概数です)

年度	学生(小中高)	一般(個人)	団体(30名以上)	年度別計
昭和46～55	378,201	563,694	28,948	970,843
56	37,068	56,443	(91) 3,730	97,241
57	19,095	36,332	(107) 4,886	60,313
58	25,282	36,719	(68) 3,621	65,622
59	23,569	35,631	(88) 4,734	63,934
60	26,050	37,684	(90) 5,659	69,393
61	20,869	38,157	(81) 5,090	64,116
62	25,213	39,776	(120) 6,195	71,184
63	28,490	51,570	(129) 7,936	87,996
平成元	26,781	51,746	(171) 8,723	87,250
2	26,589	52,472	(163) 8,976	88,037
合計	637,207	1,000,224	88,498	1,725,929

資料保有数

(平成2年度まで)

区分	資料分類				自然科学	その地	計
	人 文 科 学						
	民 俗	歴 史	芸 術	考 古			
寄贈資料	2,889	584	20	238	121	4,087	7,939
寄託資料	270	205		154		41	670
寄託資料(有期限)	9	12	17	4	29	4	75
館蔵資料	9	1,095	1			4,627	5,732
計	3,177	1,896	38	396	150	8,759	14,416

昭和56年度以後 開催した特別展・企画展

年度	テーマ	主要展示品
昭和56	明治の三島展	明治の三島の風俗・人物・学校
57	山本玄峰老師展	玄峰老師の遺墨と足跡
58	野口三四郎と三四呂人形展	三四呂人形
59	三島の文化財展	市内の指定文化財
59	ワラと生活展	ワラ製品、信仰とワラ
60	はこぶ展	運搬用具・運搬民俗
60	静岡県道祖神拓本展	県東部の双体道祖神の拓本
60	あなたのふるさと写真展	公募写真120点
60	静岡県の凧展	県内各地の凧
61	三島のあけぼの	市内出土の埋蔵文化財
61	富士山写真展	公募の富士山の写真100点
61	お弁当箱展	江戸・明治期の各種弁当箱
61	東嶺禪師展	東嶺禪師の遺墨
62	あかり展	江戸時代からの灯火具
62	東海道浮世絵展	県内22宿の浮世絵
62	三島暦と日本の地方暦展	三島暦と各地の代表的暦
62	新聞で見る三島の明治・大正・昭和	明治～戦前の新聞
63	紙芝居とおもちゃ展	街頭紙芝居と大正のおもちゃ
63	ふるさと的人物 呑山・他石展	杉田呑山と贅川他石の資料
63	楽寿館装飾絵画展	楽寿館の襖絵・杉戸絵
63	三島宿本陣史料展	本陣資料と宿の概要
平成元	塚田コレクション「世界のちょう展」	世界6地区の蝶
元	三島のあけぼのII	昭和61年以後に発掘した埋蔵文化財
元	富士を廻る俳人一龍の本連水とその師匠	連水の書画・師匠の書画
2	梅御殿装飾絵画展	梅御殿の杉戸絵・襖絵
2	古地図展—浅倉コレクションを中心に—	江戸～明治の古地図
2	石と生活展	石の民俗・石の文化
2	花島兵右衛門展	花島兵右衛門の業績と遺品

郷土館開館20周年記念

歴史講座 —江戸時代の伊豆・三島

郷土館開館20周年を記念し、「江戸時代の伊豆・三島」をテーマに「歴史講座」を実施しました。(全4回)

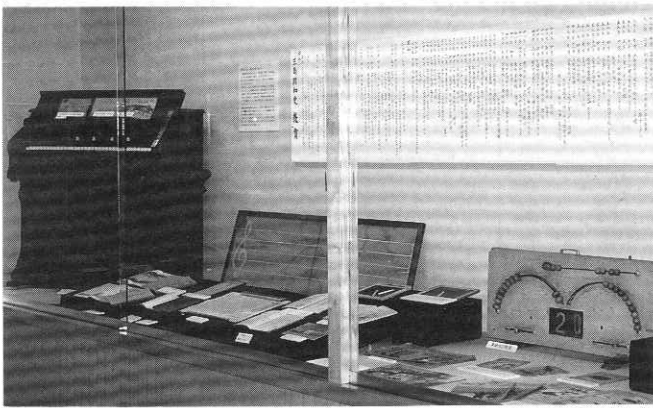
歴代の郷土館運営委員34人を招待し、一般より募集した市民30人の出席を得て、長野富夫教育長のあいさつから始まりました。(写真)

各分野の専門の研究者の講義に、毎回数々の質問が飛び出し、活気に満ちた講座となりました。

- (1) 「伊豆の支配者たち—三島を中心に—」
県埋蔵文化財調査研究所 調査研究員 橋本敬之氏
(11月2日)
- (2) 「伊豆のサイの神」
日本民俗学会 評議員 木村 博氏
(11月16日)



- (3) 「江戸時代の大社の造営について」
三嶋大社 禰宜 榎 茂彦氏
(12月7日)
- (4) 「三島宿と沼津宿」
沼津歴史民俗資料館 学芸員 瀬川裕市郎氏
(12月21日)



三島市制50周年記念企画展

「昭和史三島展」 報告

平成3年度は、三島が市制を施行してからちょうど50周年の年にあたり、三島市ではこれを記念し、さまざまな企画を実行しましたが、郷土館の企画展「昭和史三島」もその一環として計画し、開催したものです。

三島市制施行後の50年間という期間は、つい先ごろ63年間の幕を閉じた昭和時代の中にぴったりと重なる時代であり、その意味では昭和史三島の63年間を振り返ることは、まさしく三島の市制50周年を思い起すことにもなり、市制施行の記念行事としては適当な企画だったと考えます。

会期は「平成3年12月20日～4年2月11日」全開館日数は45日間、会期中の入館者数は別表の通りです。

また、展示は、次のようにコーナーを分けて行いました。

テーマ

「昭和史三島」

～資料で綴る63年～

コーナー

- (1) 三島町の拡大と景観の変化
- (2) 教育の移り変わり
- (3) 災害史
- (4) 交通事情の移り変わり
- (5) 民俗の変せん
- (6) 日本・世界の動き
- (7) 値段の昭和史

■会期中の入館者数

区分	月 12月20日～26日 7日間	1月3日～31日 28日間	2月1日～11日 10日間	合計日数 45日間
学生(小中高)	290 (人)	2,150 (人)	875 (人)	3,315 (人)
一般(個人)	805	4,535	1,750	7,090
団体(30人以上)	0	(7)524	(4)339	(11)863
合計	1,095	7,209	2,964	11,268人

資料収集状況

(平成4年2月末日現在)

氏名	住所	受入年月日	資料名	
細川勝司氏	三島市寿町4-25	H4.1.3	アイロン(木炭・電気)	2
"	"	"	電熱器	1
"	"	"	大正時代のアンカ	1
"	"	"	蓄音器	1
"	"	"	レコード箱(含レコード)	1
"	"	"	ついたて	1
"	"	"	針箱	1
"	"	"	鏡台	1
"	"	"	トランク(皮製)	1
"	"	"	押し切り	1
"	"	"	背負子	1
"	"	"	千歯こき	1
"	"	"	ハンテン	1
"	"	"	トンビ	1
"	"	"	軍服	1
小川忠男氏	三島市北田町6-37	H4.2.9	スキ(犁)	1
"	"	"	マンガ(馬鞆)	1
"	"	"	八反マンガ(八反馬鞆)	1
"	"	"	キツチ	1

ハンテン

細川勝司さん(寄贈者)の父親が、若いころ着用していたものである。「線路工手」とあり、背には鉄道省の印が入っている。丹那トンネル開き工事の際に着用したものだという。(写真下)

丹那トンネル開通は昭和9年12月のこと。三島が交通の町として再び世間の注目をあびた年である。ハンテンは昭和史を語る資料だ。



ふるさと講座 報告

市内在住の女性を対象とした「ふるさと講座」も今年で5年目。郷土の歴史・民俗・自然について学ぶ企画に、定員30人のところ多数の応募がありました。

今回は講演3回と、水路めぐりのフィールドワーク1回でした。いずれも興味深い話の中で、例年にない湧水量・流量に恵まれた水の都三島の水路ウォッチングは印象深いものでした。

講座の報告と、受講者から寄せられた感想文を紹介します。

(1)「三嶋大社の文化財と信仰」

市文化財保護審議委員 長谷川福太郎氏
三島と三嶋大社の歴史的な緊密性を強調され、三島の正倉院ともいえる大社の宝物について、詳しく説明されました。(10月31日)

(2)「地形と水路ウォッチング」

三島湧水の原風景をイメージする
郷土館運営委員 秋津 亘氏
三島湧水のメカニズムと水路・用水について地学的、歴史的な説明を受けた後、約2時間にわたり市内のいくつかの水路を歩いて観



中央で説明する秋津先生のフィールドワーク

察しました。いつも干上がっている元の菰池や浅間神社境内からもこんこんと水が湧きあふれ、皆感激していました。(11月14日)

(3)「三島の自然と民俗」

市埋蔵文化財保護監視員 伊達 主氏
稲作りが日本及び三島に入る過程を中心に稲作りの前と後の生活の違い、東日本と西日本の生活習慣の違いなどを具体的な例をとりまぜて話されました。(11月28日)

(4)「三島まちかどの作家たち」

元三島市教育研究会会長 中尾 勇氏
三島に逗留した多くの文人たちのうち、井上靖、太宰治、千利休を中心に彼等の足跡をたどる裏話を披露されました。太宰の三島でのパトロン坂部武郎氏との出会いと彼の述懐は胸打たれるお話でした。(12月13日)

受講生感想文

中野 育子

三島は、「水と緑と文化の町」という言葉を何度も見たり聞いたりしていましたが、それを体験することが少ないままに過ごしてきました。

今回ふるさと講座で、実際に水と緑を歩いてみるのができ本当に良かったです。

どこの町でも用水路というか堀や小川に水は流れているのですが、三島ではその水が地下からのわき水であることをはじめて知りました。9月10日の大雨のせいで、今年は水がたくさんわいているとのこと。聞こえてくる水の音。いいですね。

水のわきだす所、その流れのきれいさを自分の目で確かめることができたのには、とても感激しました。

お話を聞いたり本で読んだりするのはちがって、じかにそのものに触れることができるというのは、本当に素晴らしいことですね。

三島のことをもっと知りたくなりました。古老に、昔の話を聞いたり、史跡めぐりをしたりというような機会がたくさんあったらいいなあと思います。

素晴らしい自然をいつまでもなくさずにおきたいものですね。

楽しい経験をさせてもらいました。ありがとうございました。



暑さ(熱さ)に 負けないゾ! 縄文土器作り 教室

(7月23日、25日、8月23日)



夏休み恒例の行事「縄文土器作り教室」は応募者多数のため、今年より抽選とし、30人の小学生が土器作りにはげました。

猛暑の中、土ねり、成形と汗まみれで粘土と格闘し、8月23日、台風のため予定の2日遅れで焼成の日を迎えました。

カラカラに乾いた黄土色の土器を火の温度に慣らしながら火中に入れます。「熱い！」と

言いつつ、マキをくべること約2時間野焼きをします。火勢が落ちると、灰の中から赤褐色の土器が次々と顔を出しました。縄文の手法を用いながらも、ユニークに仕上がった土器たち……。

夏の暑さ(熱さ?)と共に、良い思い出となることでしょう。



常設展 展示替えの
お知らせ

「三島宿風俗絵 屏風」(複製) の展示



▲宮さんの川にて

御殿川水門下にて◀



三島の水を知ろう!

「三島の水めぐり」 秋津 亘 講師(8月7日)

富士山に降った雨や雪が地下に浸透し、三島に湧出していることはよく知られています。その水が、どのように市内を流れ、利用されているのかは、あまり知られていません。

そこで、三島の水路に詳しい秋津先生に、案内していただき、小学生19人が1日、水路・用水をたどり歩きました。

湧水池(小浜池・菰池・水泉園等)から流れる自然河川その他、この水を生活や稲作に利用するため、数多くの用水路が引かれていることがわかりました。水辺のかつての景観(水車・石橋・川ばた)などもしのぶことができました。

江戸時代に繁栄を極めた三島宿の賑わいが最もよく現わされている資料の一つが「三島宿風俗絵屏風」(六曲一双、市指定文化財)です。

郷土館では、開館20周年記念事業の一つとして、所蔵者三島信用金庫の協力を得て、原寸大に複製し、三階三島宿コーナーに展示しました。(縦151cm×横660cm)

宿の旧家、山口家(本町)に逗留した絵師、小沼満英が描いたもので、天保年間の作といわれます。

左双は三島宿の中心部で三嶋大社や本陣・旅籠の家並みを中心に、小浜池・千貫樋・時の鐘等の風物が描かれています。街道を往来する旅人の数も多く、活気が感じられます。

右双は宿はずれ川原ヶ谷から箱根の登り口にかけての集落風景です。街道沿の民家、茶屋、松並木と共に馬や駕籠で旅を楽しむ人、ばくちの仲間や、稲刈り・耕作などのんびりした田園風景が広がります。

一度ゆっくり、ご鑑賞下さい。

▶水上・白滝観音堂(部分)



▶千貫樋(部分)



■郷土館出版物紹介

「浮世絵三島絵はがき(3)」

郷土館では、「浮世絵三島絵はがき(1)」、「同(2)」に続くシリーズ3作目として「浮世絵三島絵はがき(3)」を作成しました。

- (1)題材 浮世絵に描かれた宿場三島
- (2)内容
1. 東海道五十三次の内 三島
金谷金五郎 豊国
 2. 東海道五十三次の内 三島
おせん 豊国
 3. 東海道五十三次の内 箱根三島間
山中 股野五郎 豊国
 4. 契情道中双縁
見立よしはら五十三つみ 三島
姿海老屋内七人 英泉

(3)形式 4枚1セット袋入れ

(4)頒価 100円(4枚セット)(送料72円)

今回は人物中心の浮世絵を選びました。
郷土館窓口にて販売中。お求め下さい。



■郷土館運営協議会委員

郷土館の円滑な運営を図るため、郷土館に運営協議会を設けています。委員は次のかたがたでアドバイス等をいただいています。

	氏名	住所
委員長	望月一夫	三島市光ヶ丘8-15
副委員長	秋津 亘	三島市本町17-14
委員	秋山直樹	三島市初音台5-1
"	荒木寛衛	三島市富士見台23-4
"	池谷節子	三島市徳倉734-9
"	石井 久	三島市大社町16-26
"	佐野文康	三島市東本町2丁目7-13
"	重山芳計	三島市清住町3-25
"	鈴木辰己	三島市夏梅木872
"	中山久子	三島市芝本町11-26
"	藤巻哲雄	三島市千枚原2-2
"	楨 茂彦	韮山町寺家28

(任期平成5年11月まで)

企画展図録「昭和史三島」～資料で綴る63年～

この図録は、企画展「昭和史三島」に合わせて作成したもので、三島市制50周年の年に合わせて、主に三島に係わる昭和時代を写真と資料で振り返ったものです。

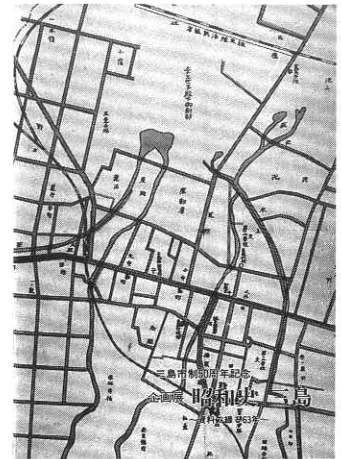
内容を紹介しますと、第1に「三島町の拡大と景観の変化」というテーマで三島市の成立を年表と写真により紹介しています。

第2に「教育の移り変わり」のテーマで、教育先進の町三島を年表・写真により解説しています。第3に「災害史」のテーマで、狩野川台風等三島の災害を載せています。

第4に「交通事情の移り変わり」のテーマで三島駅の成立等三島の交通を年表・写真により解説しています。第5に「民俗(生業の移り変わり)」として、三島のくらしの移り変わりを紹介しています。第6に「昭和時代の衣・食・住の移り変わり」として仕事着や子供の服装の変化や食生活の変化並びに住居の変化を戦前・戦後を比較しながら写真により解説しています。第7として「昭和史(日本・世界の動き)」と題し、昭和における日本と世界の動きを年表で表わしています。

第8に「値段の昭和史」としてアンパン・もりそば・ガソリン・白米等の値段の動きを昭和元年より62年まで解説しています。

頒価1部500円
送料175円にて
郷土館販売中。
お求め下さい。



郷土館だより No.41

平成4年2月29日発行

(年3回発行)

編集 三島市郷土館
住所 〒411 三島市一番町19-3
TEL 0559-71-8228
発行 三島市教育委員会